

2022年4月14日 第150回運輸政策コロキウム(岡部研究員)

奥田専務 閉会挨拶

専務理事・ワシントン国際問題研究所長の奥田でございます。本日は今年度で最初の運輸政策コロキウム・ワシントンレポートを開催致しましたところ、大変多くの皆様にご視聴頂きまして誠にありがとうございました。

今日のレポートは「米国の都市鉄道を取り巻く環境変化とコロナ禍からの回復戦略」というテーマで、ワシントンから岡部研究員が発表させていただきました。

まず、「コロナによる利用者減の影響」、「バイデン政権による財政支援の活用」という2つの観点から、米国の都市鉄道を取り巻く環境変化についてご報告するとともに、米国の都市鉄道の今後の回復戦略の基本的な考え方や事例について、現地関係者へのインタビュー結果も交えながら紹介させていただきました。

また、今回は米国の事例のみならず欧州における、気候変動問題への対策という文脈の下での、持続可能な鉄道経営を確保に向けた、長距離鉄道の整備推進や事業運営手法の改革の動きをご紹介いたしました。この点は、冒頭、宿利会長からご紹介ありましたけれども、今年度から5か年度間、日本財団からいただきましたグローバル基金を活用致しまして、欧州をはじめグローバルな研究調査を充実強化していきたいと考えておりまして、その一環としてご報告させていただいたところでございます。今後も、最先端の交通運輸観光政策に関する状況、方向性などを随時ご報告させてまいりたいと考えております。

さて今回のレポートでは、コメンテーターとして、私どもの研究アドバイザー及び運営委員会委員もお願いしております東京大学大学院工学系研究科教授であります加藤浩徳先生にご参加をいただきました。先生からは岡部研究員の発表に関するわかりやすい総括、理解を深めるための視点の提示、米国の有識者の見解のご紹介などをしていただきまして、発表について理解を深めることができましたと思います。加藤先生、お忙しい中、大変ありがとうございました。

また、続いて山内先生から米国における公共交通に関する助成の歴史についてもレクチャーをいただくとともに、ご視聴いただきました皆様からのご質問への回答を含めたディスカッションをコーディネートしていただきまして、有意義なコロキウムになったのではないかと考えております。

さて、このワシントンレポートですけれども、次回は6月下旬を目途に、米国の最新の航空事情などをレポートさせていただきたいと考えております。また、別途ご案内を差し上げるかと思いますが、皆様に次回もご視聴いただければと考えております。

最後に、私からの毎回のお願いになりますが、このあとご視聴いただいた皆様方にアンケートを送信させていただきますので、本日のコロキウムの内容についてでありますとか、今後、研究所で取り上げるべきテーマ等何なりとご意見をお聞かせ願えればと思います。私どもは皆様方からの貴重なご意見を活かしながら今後の研究所運営に活かしてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単でございますが、閉会に当たっての挨拶でございます。

本日はご視聴、誠にありがとうございました。

(以上)